

# 長野県の産業天気図

## 一 産業別四半期見通し調査結果（2012年7-9月期見通し） 一

県内主要15業種の現況（2012年4-6月期）と見通し（2012年7-9月期）調査を実施した。

- ◇ **2012年4-6月期の現況**は、全15業種中、『晴れ（好調）』が1業種、『薄日（順調）』が1業種、『曇り（普通）』が5業種となり、『小雨（低調）』が6業種、『雨（不調）』が2業種となった。前回に比べ『小雨（低調）』が増加し、『曇り（普通）』と『雨（不調）』が減少した。

製造業では、自動車生産台数の増加から、「自動車用部品」を中心に機械工業の中で関連する業種の部品受注は好調な水準となった。

非製造業ではエコカー補助金など政府支援策によって新車販売台数が伸びており、「自動車小売」が好調だった。一方、「ガソリンスタンド」、「民間工事」などは引き続き厳しい業況となった。

- ◇ **2012年7-9月期の見通し**は、全15業種中『晴れ（好調）』が該当業種なし、『薄日（順調）』が2業種、『曇り（普通）』が5業種となり、『小雨（低調）』が6業種、『雨（不調）』が2業種となった。

製造業では自動車関連で来期まで底堅い受注が続く見通し。海外需要は欧州向けで落ち込みが見込まれるものの、米国向けや中国などのアジア向けで堅調な推移が見込まれる。一方、民生品関連ではクリスマス商戦に向けた需要期に入るものの、足もとの動きが鈍く盛り上がり欠ける見込み。

非製造業ではエコカー補助金の終了が見込まれるものの、各社の販促強化や新車投入による需要喚起が期待される。また、観光面では夏季行楽シーズンを迎え、避暑客などの取り込みを図る動きがみられる。一方、建設や運輸関連の業種では工事量や貨物量の増加が見込まれるものの、引き続き低水準に止まり厳しい事業環境が続く見通し。

### <産業別の天気図と見通し>

業種	今期 (4-6月期)	来期 (7-9月期)	業種	今期 (4-6月期)	来期 (7-9月期)	業種	今期 (4-6月期)	来期 (7-9月期)
一般機械		→	食料品製造		↗	公共工事		→
情報通信機器		→	機械器具卸		→	民間工事		→
電子部品デバイス		→	大型小売		→	旅客		↗
精密機器		→	自動車小売		↘	貨物		→
自動車用部品		→	ガソリンスタンド		→	ホテル旅館		→

#### 業界天気図

##### <現況>



晴れ  
(好調)



薄日  
(順調)



曇り  
(普通)



小雨  
(低調)



雨  
(不調)

##### <見通し>



上昇



やや上昇



横ばい



やや下降



下降

照会先

一般財団法人 長野経済研究所

調査部 (担当: 宮前、桑井、岩崎)

TEL 026-224-0501

# 長野県の産業天気図 (県内主要15業種の動向)

## — 産業別四半期見通し調査結果 (2012年7～9月期見通し) —

### <産業別調査結果>

現況 (4-6月期)	天気図記号	15業種中 (カッコ内は前期)	見通し (7-9月期)	変化方向	15業種中
	(好調) (順調) (普通) (低調) (不調)	1業種 (1業種) 1業種 (1業種) 5業種 (6業種) 6業種 (2業種) 2業種 (5業種)		↑ 上昇 ↗ やや上昇 → 横ばい ↘ やや下降 ↓ 下降	0業種 2業種 12業種 1業種 0業種

	業種	前期 (1-3月期)	今期 (4-6月期)	来期 (7-9月期)	7-9月期見通し
製造業 (6業種)	一般機械			→	国内、海外ともに受注は堅調に推移する見込み
	情報通信機器			→	車載向けが下支えし、底堅い受注水準が続く
	電子部品・デバイス			→	商戦に向けた需要期に入るが、盛り上がり欠ける見込み
	精密機器			→	海外向けを中心に安定した受注水準となる見込み
	自動車用部品			→	エコカー補助金終了後も、当面は堅調な受注となる見込み
	食料品製造			↗	厳しい収益環境が続くが夏場の需要に期待
非製造業 (9業種)	機械器具卸			→	国内向け受注は弱い動きが継続
	大型小売			→	節約志向続くも、夏物商品に期待
	自動車小売			↘	補助金終了の反動減に対し、各社販売促進を強化する見込み
	ガソリンスタンド			→	収益環境は厳しいものの、夏季の行楽需要に期待
	公共工事			→	工事量は増加するも受注競争の激化が続く
	民間工事			→	設備投資案件の受注低迷が続く
	旅客			↗	夏季行楽シーズンを迎え、利用客の増加に期待
貨物			→	貨物量は増加するも低水準にとどまる見込み	
ホテル・旅館			→	夏季行楽シーズンに期待するも、観光地の予約状況は鈍い	

### 業界天気図

#### <現況>



晴れ  
(好調)



薄日  
(順調)



曇り  
(普通)



小雨  
(低調)



雨  
(不調)

#### <見通し>



上昇



やや上昇



横ばい



やや下降


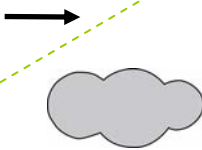


下降


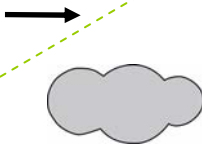
■調査内容: 「業界の現況」、「業界見通し」は、県内対象企業経営者が業界景気をどうみているかをアンケート調査とヒアリング調査を基に、当研究所が判断した。

■調査期間: 2012年6月中旬～2012年7月上旬、調査対象企業…県内主要企業15業種の134社


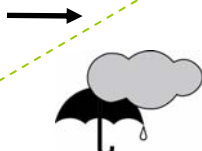
## 一般機械 : 国内、海外ともに受注は堅調に推移する見込み

<p>現況</p>	<p>工作機械は国内が自動車向けやスマートフォンなど精密機器関連で受注が上向いて推移した。海外市場では米国が底堅かったものの、欧州が財政問題を背景に弱含み、中国も持ち直しの動きが鈍かった。半導体関連機械は民生品の需要低迷から半導体メーカーの設備投資が冷え込んでおり低調に推移した。建設機械は国内で震災の復興需要から受注が増加傾向となった。米国向けは公共、民間ともに工事量が安定しており堅調な受注水準となっている。欧州はドイツ向けが好調なものの、その他の国・地域では需要が低迷している。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>工作機械は自動車向けでエコカー補助金の終了に伴う落ち込みが懸念されるものの、需要の下押しは限定的との見方が多く、引き続き堅調な受注が見込まれる。海外市場では欧州が低迷する見込みだが、中国は引き合いが増加傾向にあり設備投資マインドの改善が期待される。半導体関連機械はメーカーの投資意欲が低迷しており弱い動きが続く。建設機械は国内や米国に加え、アジア地域はASEANで需要が拡大しており底堅い推移となる見通し。一方、欧州は財政問題など不透明感が強く、ドイツ向け以外は受注減少が見込まれる。</p>
	


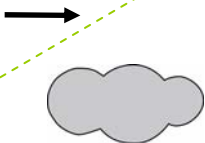
## 情報通信機器 : 車載向けが下支えし、底堅い受注水準が続く

<p>現況</p>	<p>車載向け機器は完成車メーカーの生産体制増強に伴い、関連する部品受注も好調に推移した。無線機器は建機向けが増加傾向となったものの、その他の産業機械は企業の設備投資の動きが弱く低調な受注水準となった。ホームセキュリティ向けは市場が緩やかな拡大傾向にあるため増勢が続いた。ストレージ（外部記憶装置）は新規、メンテナンスともに年度末の駆け込み需要の反動減から弱含んだ。大型プリンタは国内、海外ともに販売台数は増加したが、為替相場が円高基調で推移したため売り上げ、収益は伸び悩んだ。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>車載向け機器はエコカー補助金の終了が見込まれるが、国内、海外ともに底堅い買い替え需要から関連する部品受注も横ばい推移となる見通し。無線機器は引き続き産業機械向けで低調な推移が見込まれる。ストレージは反動減が一段落し、新規、メンテナンスともに緩やかな持ち直しに転じる見通し。大型プリンタは国内、海外ともに安定した販売台数が見込まれる。しかし、新興国を中心に価格競争が進展しているため、売り上げ、収益を下押しすることが懸念される。業界全体では車載向けが下支えし、底堅い受注水準が続くとみられる。</p>
	



## 電子部品・デバイス : 商戦に向けた需要期に入るが、盛り上がり欠ける見込み

<p>現況</p>	<p>デジタル家電など民生品向けは在庫の過剰感が依然として強かったものの、春先の新製品投入などによって持ち直しの兆しがみられた。産業機械向けは国内、海外ともに自動車など一部の業種を除き設備の更新需要が弱く関連する部品受注も落ち込んだ。加えて民生品同様に在庫の過剰感が強くなっており受注を下押しした。自動車向けは新車の買い替え需要が上向いて推移したため堅調だった。輸出企業では円高に伴いセットメーカーからのコストダウン要請が強まり、受注水準が低迷する中で売り上げおよび収益も落ち込んだ。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>民生品向けは在庫調整の進展から関連する部品受注も緩やかな持ち直しに転じるとみられる。産業機械向けは海外市場で欧州、中国の減速感が高まっていることから低迷が続く。自動車向けはエコカー補助金が期限前に終了した場合も、完成車メーカーの生産計画は落ち込まず、来期（7-9月期）までは底堅い受注となる見通し。業界全体では在庫調整が進展しクリスマス商戦に向けた需要期に入るが盛り上がり欠ける見込み。また、金やレアメタルなど原材料価格が高止まりしており、価格競争が進展する中で厳しい収益環境が続く見通し。</p>
	

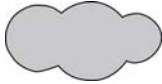
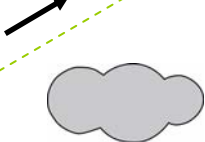
## 精密機器：海外向けを中心に安定した受注水準となる見込み

<p>現況</p>	<p>光学分野では、スマートフォンの販売台数増加に伴い部品受注は増勢が続いているが、コストダウン要請から単価引き下げもみられた。デジタルカメラ関連では、一眼レフなど高級機種が中国などのアジア市場に支えられ堅調だった。国内ではカメラ機能が向上したスマートフォンの普及が進んでおり、コンパクトカメラ向けの部品受注は減少した。産業機械向けは、液晶関連企業などで設備投資の動きが弱く落ち込みが続いた。計器類は、自動車向けが国内における新車販売台数の増加を背景に受注は底堅く推移した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>光学分野では、スマートフォンの普及がさらに進むとみられ、関連部品の受注は増加基調が続く見込み。デジタルカメラ関連では、一眼レフなどの高級機種がアジアを中心とした旺盛な需要から好調に推移するとみられる。産業機械向けは、半導体や液晶関連等を中心に設備投資の抑制から低迷する見通し。計器類は、自動車向けがエコカー補助金終了による影響が懸念されるものの、海外需要が下支えするとみられる。業界全体では一部で弱含むものの、海外向けを中心に安定した受注水準となる見込み。</p>
	


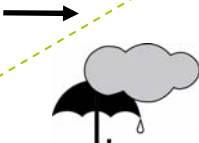
## 自動車用部品：エコカー補助金終了後も、当面は堅調な受注となる見込み

<p>現況</p>	<p>国内ではエコカー補助金の効果から、低燃費車関連部品の受注が順調に推移した。特にハイブリッド車や軽自動車関連の部品受注が好調だった。海外需要は北米向けや、中国などアジア向けが堅調だったものの欧州向けが弱含んだ。バスなどの大型車種は国内の事業用自動車向けエコカー補助金による買い換え需要の高まりに加え、アジアなど海外需要も安定しており、部品受注が上向いて推移した。補修用部品は震災の復興需要が一段落したものの、中古車販売台数の増加に伴い受注は底堅く推移した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>国内ではエコカー補助金の終了が予想されるが、完成車メーカー各社の新車投入やモデルチェンジによる需要喚起から、来期（7-9）月期の部品受注は前期並みに推移する見込み。消費者ニーズの高い低燃費車関連は好調な受注が続くとみられる。海外では新車需要が順調な北米向けや、中国などアジア向けがけん引する見通し。補修用部品は、国内は引き続き中古車向けで安定した受注が見込まれるものの、海外は欧州の落ち込みが懸念される。業界全体では国内、海外の安定した需要が下支えし、補助金終了後も当面は堅調な受注となる見込み。</p>
	

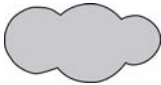
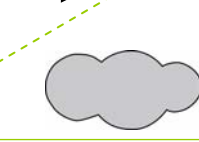
## 食料品製造：厳しい収益環境が続くが夏場の需要に期待

<p>現況</p>	<p>味噌は生味噌の販売数量が減少したものの、即席味噌や糀関連製品の売り上げが好調に推移した。製粉は、高騰していたそば粉の仕入価格が落ち着き、収益面で改善がみられた。豆腐は、低価格化が進んでいることと、大豆の高騰により収益環境は厳しさが増した。即席食品は売り上げが堅調に推移したものの、調味料や資材の値上がりで収益を圧迫した。飲料は、ミネラルウォーターや炭酸飲料の生産量が順調に推移した。全体では、原材料価格が高止まりしているが、消費者の低価格志向から販売価格の引き上げは難しく収益が圧迫された。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>味噌は消費が落ち込む夏場に向け、引き続き糀関連の新製品で需要を喚起する動きが期待される。製粉はコンビニエンスストアやスーパーなどの小売店向けの冷たい麺類の需要増加から売り上げは堅調に推移する見通し。豆腐は大豆など原材料が引き続き高値圏で推移し、厳しい収益となる見込み。飲料は、夏場の需要期を迎え、売り上げは増加基調で推移するとみられる。全体では、消費者の低価格志向から収益環境の厳しさは続く見通し。震災によって需要が一時的に高まった前年ほどの伸びは難しいものの、飲料を中心に夏場需要の高まりが期待される。</p>
	


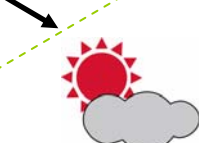
## 機械器具卸 : 国内向け受注は弱い動きが継続

<p>現況</p>	<p>企業の設備投資については、大きな投資案件が海外向けが中心であり、国内向けは予想した以上に弱く、上向きつつあった設備投資も今期後半から抑制色が強まっている。工作機械は、海外の自動車関連向け受注は底堅いものの、現地調達が増加しており、これまで底堅かった中国でも受注案件の減少がみえ始めている。国内では太陽光発電設備やLED照明などの節電関連商品の受注は増加しており、個人住宅や事業所向けの引き合いも増えている。ただ全体に占めるウエイトは小さく、全体を押し上げるまでには至っていない。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>国内では設備投資の抑制姿勢が続くことが予想され、全体としては横ばいの見通し。不透明な海外景気の情報次第では投資の見直しにより、下押しする懸念もある。工作機械は海外を中心に自動車関連向けの受注が底堅く推移する見通し。半導体関連向けの国内受注は、本格的な回復にはまだ時間を要する見込み。一方、太陽光発電設備やLED照明など省エネ機器は、住宅向けを中心に引き続き堅調な動きが予想される。また7月から始まった固定価格買い取り制度の導入に伴い、年度内の設置に向けた需要の増加が今後期待される。</p>
	


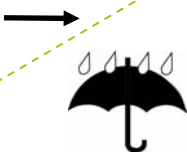
## 大型小売 : 節約志向続くも、夏物商品に期待

<p>現況</p>	<p>百貨店では、雨天や低温など天候不順の影響から、春物衣料を中心に動きが鈍化した。クールビズ関連商品も昨年ほどの勢いはなく、消費者の節約志向が続いている。一方、催事等による集客は比較的順調に推移し、食料品や身の回り品などは堅調だった。スーパーでは、野菜や鮮魚等の生鮮食品を中心に底堅い動きがみられ、総菜等も売上げを伸ばした。当初、震災による反動減がみられた日用雑貨も、5月以降は順調に推移した。新規出店効果もあったことから、全体としては例年並みを売上げを維持している。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>夏季賞与が前年を下回る見通しとなるなど、所得環境の改善が見込めない中、消費者の節約志向は続く見込み。百貨店では夏のクリアランスセール of 時期となり、天候不順で出遅れていた夏物衣料・クールビズ関連商品の売上げ動向がカギとなる。各社目新しい催事の企画により来店客数の増加が期待される。スーパーは、飲料が最需要期に入るほか、内食志向の高まりから食料品への需要は底堅く推移する見通し。各社店舗のリニューアルを進めて集客効果を期待しているが、さらなる競合店との価格競争が予想され、厳しい収益環境が続く見通し。</p>
	



## 自動車小売 : 補助金終了の反動減に対し、各社販売促進を強化する見込み

<p>現況</p>	<p>年度末の需要期に対する反動減があったものの、エコカー補助金が下支えし今期（4-6月期）の県内新車登録台数は例年を上回る水準となった。車種別では、ハイブリッド車や軽自動車などの低燃費車が好調に推移した。それ以外の車種でも補助金対象車を中心に販売台数が伸びた。輸入車は燃費性能が高い小型車を中心に需要が安定しており、販売台数は増加した。中古車は新車買い替えによって良質な下取り車両が増加したため順調な推移となった。特に軽自動車の需要が高く、販売台数は増加した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>エコカー補助金の終了が予想され、その後の反動減が見込まれる。各社はキャッシュバックやオプションプレゼントなどのキャンペーンを展開し、販売台数の落ち込みを避けるための販売促進を強化していく見込み。また夏以降に新車の投入やモデルチェンジを予定しているメーカーもあり、新たな需要喚起が期待される。輸入車は低燃費な小型車が堅調に推移する見通し。中古車は引き続き順調な推移が見込まれる。しかし、買い替え需要の落ち込みとともに、良質な車両の減少による販売台数の落ち込みが懸念される。</p>
	


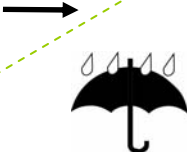
## ガソリンスタンド：収益環境は厳しいものの、夏季の行楽需要に期待

<p>現況</p>	<p>GWにおける県内観光地の入り込み客数が前年比で減少したことに加え、低燃費車の普及や消費者の節約志向から販売数量も減少傾向となった。4月中旬以降原油価格は緩やかな下落基調にあり仕入価格は低下した。しかし、スタンド間の価格競争が依然として激しいことから、仕入価格以上にガソリン販売価格が低下しており利鞘の縮小が続いた。改正消防法による老朽地下タンクの補修義務化を受けて、投資負担に伴う費用対効果を勘案し、不採算店舗の閉鎖を検討する動きがみられた。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>夏季行楽シーズンを迎え避暑地を中心にガソリン需要の増加が期待される。しかし、消費者が遠出を控える傾向にあるため、販売数量の増加は限定的となる見込み。仕入価格は低下傾向にあるものの、各スタンドでは利用客の取り込みに向けて一段と激しい価格競争が見込まれ厳しい収益環境が続くとみられる。こうした中、各社収益確保に向けて洗車やオイル交換など油外サービスの強化を進める見込み。</p>
	


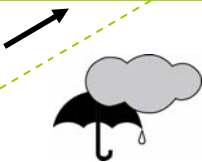
## 公共工事：工事量は増加するも受注競争の激化が続く

<p>現況</p>	<p>国・県発注の工事は予算執行が進まず、前年の工事量を下回った。特に県発注工事については進捗が低調で、土木工事を中心に工事件数が大きく減少した。一方、市町村の工事については、積極的な予算を組んだ自治体を中心に、学校や公共施設関連の大型案件が多くみられ、工事件数・金額とも増加した。県全体としての工事量は前年並みを確保したものの、地域によってバラつきが大きく、受注環境の改善には至っていない。単価上昇が懸念された資材価格や労務費は落ち着いているものの、依然として高水準にある。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>出遅れている国・県発注の工事が本格化するとみられ、相応の工事量が確保される見込み。市町村発注の工事量についても、引き続き前年水準を上回ることが予想される。県内の公共工事に関する2012年度の予算額は前年並みであることから、大幅な受注量の増加は見込めないが、期間内の工事量は前年水準を上回る見通し。民間工事の減少を受けて、地元以外の公共工事入札に積極的に参加する事業者が増加しており、受注競争は一段と激しくなるとみられる。</p>
	


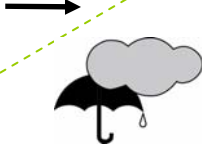
## 民間工事：設備投資案件の受注低迷が続く

<p>現況</p>	<p>民間企業の設備投資は、介護・福祉や流通、小売等の一部業種で施設を新設する動きがみられるものの、製造業の慎重姿勢が継続しており、工事案件は低調に推移している。民間住宅については、エコ・省エネ化のリフォーム工事の需要は底堅いが、新築住宅を取得する動きは依然として鈍く、着工戸数は低迷している。しかしながら、消費増税に対する消費者の関心は日ごとに高まっており、住宅展示場への来場者が増加している。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>民間企業の設備投資は、製造業を中心に抑制傾向が続くとみられ、工事案件は低調に推移する見通し。これまで堅調に推移してきた介護・福祉施設についても、新設案件の着工は落ち着きつつある。民間住宅については、消費増税法案の衆院通過を契機に、消費者のマインドに変化がみられ、ハウスメーカー、建設事業者が営業を強化している。そのため、住宅エコポイント制度は終了したものの、新設住宅着工戸数は前年並みとなる見通し。リフォーム案件は、夏場を迎え、太陽光発電等の引き合いが増加するとみられる。</p>
	


## 旅 客 : 夏季行楽シーズンを迎え、利用客の増加に期待

<p>現 況</p>	<p>観光バスは、花見などのツアー旅行や修学旅行が例年どおり催行され、震災の影響でキャンセルが重なった前年を上回る受注があった。しかし4月に関越道で大規模なバス事故が発生し、一時ツアー受注に陰りがみられた。高速バスは、ビジネス客・観光客ともに例年並みの利用となった。タクシーはGWの利用が前年より増えたが、市街地の夜間利用が盛りに欠けた。燃料価格は、前半に高止まりで収益を圧迫したが、後半からは低下に転じた。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>観光バスは、県内での避暑など観光客の利用に加え、県外へ向かうツアー受注も増えており、夏季旅行の需要増加を見込む。一部、関越道の事故で委託要件が厳しくなったため、ピーク時に増便できないケースが懸念される。高速バスは、帰省客を中心に利用は例年並みで、安定推移する見通し。タクシーはイベント開催に伴う需要に期待するが、夜間利用の回復は限定的。燃料価格は想定価格を下回って推移し、収益面でプラス要因となる見通し。</p>
	

## 貨 物 : 貨物量は増加するも低水準にとどまる見込み

<p>現 況</p>	<p>自動車部品の貨物量はエコカー補助金による政策効果や、復興需要、海外現地工場での増産により好調に推移した。機械関連の受注は、建設機械、工作機械などが復興需要により底堅い動きがみられた。食品関連は、春野菜が天候不順により出遅れ、やや低調に推移したが、飲料や他の食品は例年並みであった。全体の貨物量は前年水準を上回ったが依然として低水準である。県内軽油価格は4月に過去3年の最高値を記録し、期間後半は低下に転じたものの依然高値水準にあり収益環境は厳しい状況が続いた。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>自動車部品の貨物量は、引き続き堅調に推移するとみられるが、予想されるエコカー補助金の期限前終了の影響が懸念される。機械関連の受注については、建設機械等、一部に堅調な荷動きが見込まれるが、機械全般の貨物量に大きな変化はない見通し。食品関連は夏野菜や飲料などの取扱量増加が期待される。全体の貨物量は前年を上回るが、低水準にとどまる見込み。足元の燃料価格は下落傾向にあるが、価格競争は厳しく、採算面の改善は限定的となる見込み。</p>
	

## ホテル・旅館 : 夏季行楽シーズンに期待するも、観光地の予約状況は鈍い

<p>現 況</p>	<p>都市部のホテルでは、個人客・団体客共に宿泊利用がほぼ例年並みとなり、外国人観光客も増加した。宴会利用も例年並みとなったが、小規模化が目立った。観光地の旅館では、個人客・団体客共に利用状況は低調であった。GWには例年並みの集客が期待されたが、首都圏や東北地方へ流れる観光客も目立った。地域で見ると、東北信では善光寺や上田城跡など、一定の観光需要があったが、昨年上半期のNHKドラマの舞台となった松本周辺地域では、その効果が薄れたため、観光客数の減少が目立った。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>都市部のホテルでは、市街地のイベントによる集客効果が見込まれ、個人客、団体客ともに予約状況は良好。外国人観光客もタイ、台湾中心に増加が期待される。一方で客単価は、消費者の節約志向により、低下傾向となる見通し。観光地の旅館では、夏季行楽シーズンを控え宿泊客の増加が期待されるが、個人客・団体客共に予約状況は鈍い。首都圏や東北地域など、他地域との競合が激化する見通しだが、花火など県内観光イベントに対する期待も大きい。割安な連泊プランを提供し、避暑客中心に集客を図る旅館もみられる。</p>
